



医療福祉・在宅看取りの 地域創造会議 通信 第93号

(R3/11/10)



第95回ワーキンググループ会議 (R3.10.28)

「在宅療養・看取りに関する意識調査から見えてきたこと」
講師：守山市健康福祉部 在宅医療・介護連携サポートセンター
保健師 浦西 理絵さん

医療職・介護職・家族の
会・行政職など、会場12
名、Web19名、合計31
名の参加がありました

「住み慣れた自宅で人生の最期まで安心して療養したい」という願いを実現するために・・・

☆意識調査から見えてきた課題

自宅で最期を迎えたいと思っても「できない」と感じている人が多い

エンディングノートの認知度は向上しているが、家族と話し合うきっかけがなく、活用数が少ない

在宅療養・看取りに関する相談窓口やサービスの認知度が低い

重点的な取組

ACPの推進 エンディングノートの活用機会の確保

- 【市民への推進】
エンディングノートの周知啓発（出前講座・配布など）
講演会の開催
- 【関係機関（多職種）への推進】
多職種が連携できる体制づくりの継続

参加者の声

❖ 死期が迫っている人の場合、例えば訪問看護師がその家族に、亡くなる直前はどんな状態になるかなどの正しい情報を絶妙なタイミングで伝えることで、家族は安心して看取ることができ、満足感を得ることができると思う。

❖ 在宅看取りを普及させるためには、実際に在宅で看取ったことについての質の検証をし、体験談や反省点を共有することが必要。

❖ 支援体制を整えるためには、最期まで自分が看取る覚悟を持つための教育を医師に実施することが大切ではないか。また市民は、その医師が最期まで看る覚悟がある人かどうかを見極める力を付けなくてはならないと思う。

❖ ACPについて、高齢者には「まだ早い」という認識の人が多く、今後は若い世代への教育が大切。

❖ エンディングノートの普及は難しい課題だが、「一年後に自分が死ぬとしたら…」と考えたら書けるのではないか。

❖ 住民啓発について取り組んではいるが、「すごく良かった」という反応はあっても、実際に我がこととして、どこまで自分の身に置き換えて受け止め考えておられるのか、と感じる。

❖ 配布したエンディングノートや出前講座などを家族の中で話題にし、意識してもらえるきっかけになれば良いと思う。

❖ 在宅死のハードルは低くなっているように思うが、エンディングノートというネーミングに抵抗がある。もっと良い名前はないか。

様々な取り組みについて、どのような年代層、人に啓発したら最も響くのかという点が課題だと感じている。また、例えばエンディングノートを手にした人の直接的な意見がなかなか聞けておらず、どうすればそれが可能になるかを考えながら普及を進めたい。



浦西理絵さん

「滋賀の医療福祉を守り育てる」県民フォーラム

日時：11/28（日）14：00～16：45（受付13：30～）
場所：ピアザ淡海 ピアザホール（大津市におの浜1-1-20）
ゲスト：森脇健児さん

第1部 いきいき、はつらつと暮らし続けるために 「在宅療養・在宅看取り講座」

介護リフォーム・介護グッズ、皮膚トラブル、お金の心配ごとについて、森脇健児さんと一緒に学びましょう！

第2部 「知って得する“おしっこ”のこと」

排尿の悩みや心配ごとを、滋賀医科大学教授の河内明宏さんと彦根市立病院看護師の北川智美さんから教えてもらいましょう！

第3部 Instagramフォトコンテスト 「じいじ ばあばと一緒に」 上映会&表彰式

☆申し込みなど詳細はホームページ (<http://mitori.siga.jp/>) をご覧ください。
たくさんのご参加、お待ちしております♪



滋賀県立総合病院 犬塚先生のコメント



在宅で急変したときの不安を取り除くためには、これから起こりそうなことを具体的に説明することが大切。

既存のパンフレットよりも、もう少し早い段階から手に取ってもらえるようなものを考えても良いのかも。

【次回ワーキンググループ会議】

○日時：令和3年12月23日（木）18：30～20：00
○場所：滋賀県庁 東館7階 大会議室（Web参加可）
テーマ：（仮題）介護現場における意思決定支援の取組報告
講師：（株）六匠 取締役 森本 信吾 さん



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 事務局（滋賀県庁 医療福祉推進課内）

TEL:077-528-3529/FAX:077-528-4851

E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp

